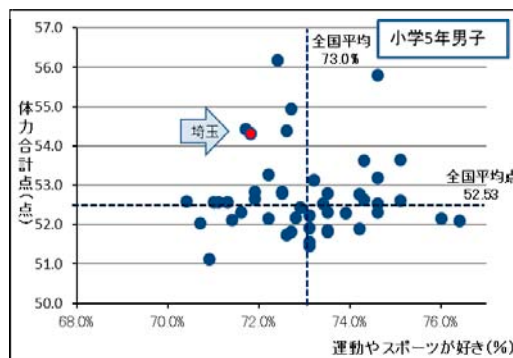


令和6年度調査結果から見える取組の成果と課題

1 本県児童生徒の体力（実技）数値は、全国的に高い水準を維持（全体的に向上傾向）

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において、小・中学校において体力合計点、総合評価に係る数値は全国と比較して非常に高い。これらは、各市町村や学校において、児童の実態に即して、自ら運動に親しむ児童生徒の育成・体力向上に向けた体育・保健体育の授業づくりに熱心に取り組み、実践を積み重ねてきた成果である。また、各学校が工夫を凝らし、体力プロフィールシート等を活用して、個々の体力の課題に応じた取組をはじめ、各市町村、学校の体力向上推進委員会を中心として、体力向上に係る計画的、継続的な取組の成果である。



【参考】体力合計点と運動・スポーツ好意度の関係（小5男子）

- また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、令和6年度と5年度の本県の平均値を比較すると、体力合計点は小学校の女子のみ低下し、小学校の男子は横ばい、中学校の男女ともに上昇した。これらの要因としては、小学生という様々な生活習慣を確立する時期がコロナ禍と重なったことが影響している可能性があると考えられる。

生活習慣等に関しては、1週間の総運動時間は、60分未満の児童生徒の割合が、昨年度に比べて低下はしているものの、依然、全体の10～20%を占めているという状況である。また、児童生徒のスクリーンタイムは引き続き増加の傾向にあり、日々の生活様式が変化してきていることが伺われる。今後は、体育授業や体育的活動の更なる充実を図り、家庭の協力も得て、主体的に時間を確保して運動する習慣の確立を目指す必要がある。

1 「運動やスポーツをすることは好きですか」 （「好き」・「やや好き」の割合）		
	男子	女子
R6 小学5年生	92.4%	84.8%
R6 中学2年生	88.8%	75.5%
R6 高校2年生	86.4%	71.3%

2 「保健体育の授業は楽しいですか」 （「楽しい」・「やや楽しい」の割合）		
	男子	女子
R6 小学5年生	94.8%	90.3%
R6 中学2年生	89.5%	82.5%
R6 高校2年生	81.0%	72.4%

※ 高校は定時制・通信制を含む。

2 運動好きな児童生徒の育成を継続

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査から、「運動・スポーツが好き」「体育・保健体育の授業は楽しい」という児童生徒の割合は、全国と比較して若干低い結果ではあったが、令和5年度と比較すると、小中学校の男女ともに上昇しており、全国平均値との差も縮まってきている。また、令和2年度から高等学校段階における体育・健康等に関する指導等の更なる改善に役立てるため、高校2年生の全生徒を対象に、運動の好意度等調査を実施したところ、令和5年度と比較すると高校2年生男女共に、「運動・スポーツが好き・やや好き」「保健体育の授業は楽しい」の割合は、横ばいの状況である。
- 体育・保健体育科の目標である「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する」ためには、運動やスポーツを好きになり、自ら運動に親しむ児童生徒を育成することがきわめて重要である。児童生徒が発達の段階と運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わう体育授業の充実や家庭との連携も踏まえて、運動習慣を確立し、運動好きな児童生徒の育成を視点とした取組を引き続き推進していく必要がある。

体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、「生きる力」の重要な要素である

（小学校学習指導要領解説体育編・中学校学習指導要領解説保健体育編・高等学校学習指導要領解説保健体育編）

埼玉県の目指す体育・保健体育授業

「めあてをもって進んで運動 仲間と学ぶ 喜びあふれる体育・保健体育授業」